

# 就学・進学問題に直面している外国ルーツの子どもたちの状況

認定NPO法人多文化共生センター東京 王さんのお話より  
[http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo\\_theme1-1.php](http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo_theme1-1.php)

## 実態を把握できていない高校進学率

日本人中学生の高校進学率

**98.1%**

※定時制・通信制等への進学を含む

外国ルーツの中学生の高校進学率

**???**

そもそも  
実態がつかめて  
いない

多文化共生センターの調査から…

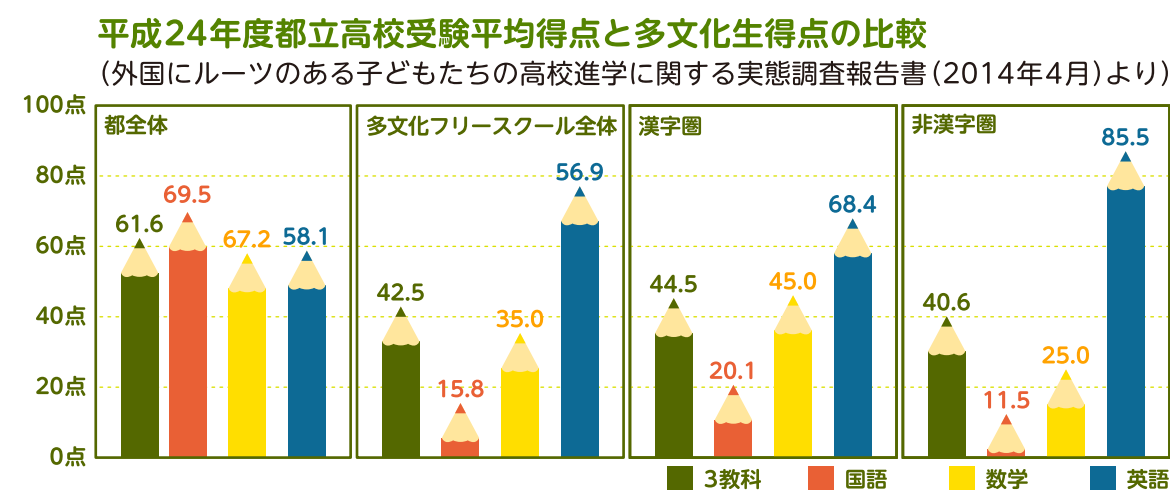
東京都の公立中学校外国人児童生徒在籍率が44.7%

▶公立高等学校外国人児童生徒在籍率はわずかに**19.0%**

## 外国ルーツの子どもたちの高校進学率はかなり低いと想定される

### なぜ高校に行けないのか？ 行かないのか？

漢字の難しさが受験をさらに困難なものに。問題文の漢字を読むことさえ難しいため、数学・英語以外の教科の点数は概して低い。



### 不十分な情報

多言語化されている情報が限られており、入試に関する情報を入手しづらい。

### 受験資格を得ることにハードルが

日本と外国での制度の違いから、成績証明書など、受験に必要な書類の用意も難しい場合がある。書類に不備があるとして、受験資格自体が得られないこともある。

## 外国ルーツの子どもたちが背負う不安

### 学業や学校生活への不安

勉強についていけない  
 友だちができない  
 自分は勉強をつづけていけるんだろうか  
 勉強がわからなくて、やる気がでない

### 環境への不満

日々の暮らしへの不安  
 出身国では、言葉で苦労することはなかったのに…  
 出身国の方が良い暮らしができたのに…

### 将来への不安

在留資格による制限への不安  
 進学・就職への不安  
 自分は将来、どこで暮らしていけばいいんだろう？

### アイデンティティの喪失

自分は一体何者なのか  
 自分はなぜここにいるの？  
 自分の母国はどこ？

### 親との衝突

学校や滞在国が  
 親の都合に左右されるいらだち  
 なぜ日本に来なくてはならなかったの？  
 自分の親が日本人の友だちの親と違う事が  
 恥ずかしい

## 外国ルーツの子どもたちとは？

外国にルーツを持つ子どもたち。

外国籍の子だけでなく、

日本国籍を持った子もいる。

日本語がほとんど話せない子もいれば、

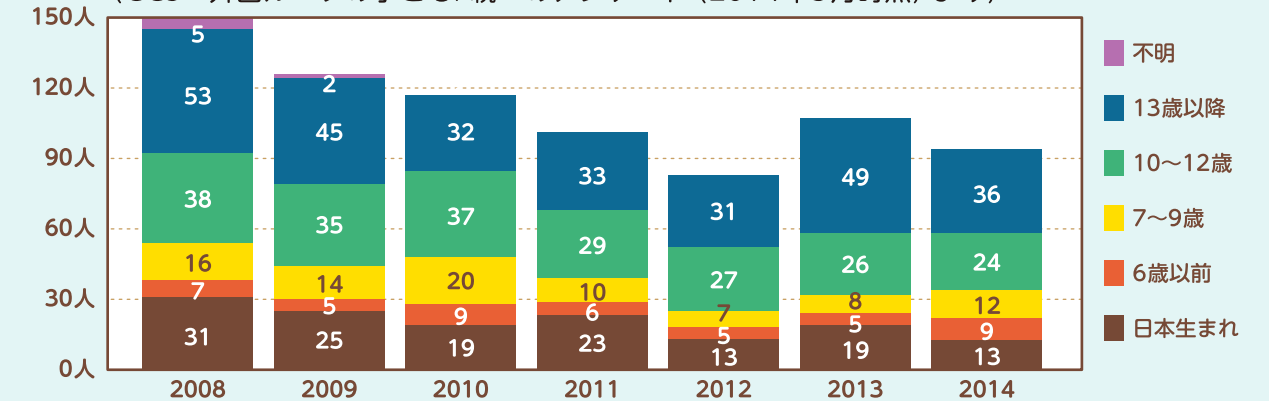
日常会話に支障のないほど

日本語が堪能な子もいる。

NGO世界の子どもと手をつなぐ学生の会 (CCS) 中西さんのお話より  
[http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo\\_theme1-3.php](http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo_theme1-3.php)

## 外国ルーツの子どもたちはいつ、どんな理由で日本にやってくるのか

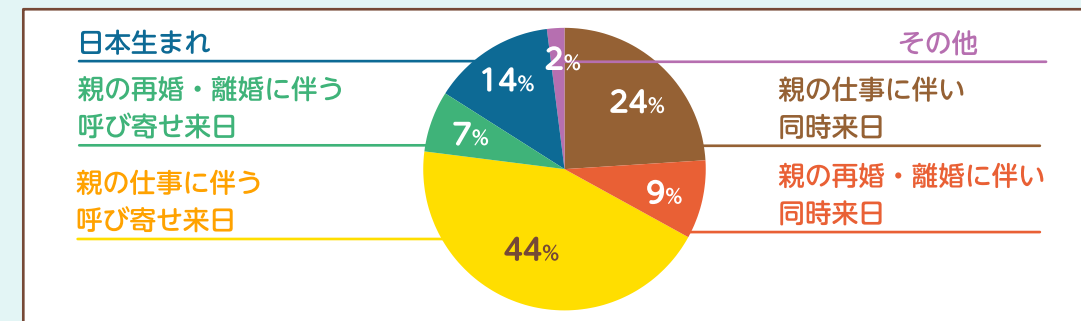
CCSの子どもの在籍状況、来日時期  
 (CCS 外国ルーツの子ども/親へのアンケート(2014年5月時点)より)



最も多いのは13歳以降で来日する子どもたち。▶高校受験への準備期間はわずか

### CSSの子どもの来日理由

(CCS 外国ルーツの子ども/親へのアンケート(2014年5月時点)より)



6割を超える子どもが親の仕事に伴って来日。そのうち4割以上の子が「呼び寄せ」来日。「呼び寄せ」とは、親が先に来日子どもを後から日本へ呼び寄せること。

## 外国ルーツの子どもたちの親たち

多くの子どもたちは、親の都合で来日することが多い。この場合、日本人が想像する親の姿と彼らの親は異なることもある。

### 日本語が十分にわからない

- 就学や進学に関する情報を十分に得られない
- 子どもが母語を話せない場合、親子間でコミュニケーションを十分にとれない

### 子の進学・就学への無関心

- 子どもの成績や進学に関心のない親もいる
- 「進学するより働いてほしい」と考える親もいる

### 経済的に不安定

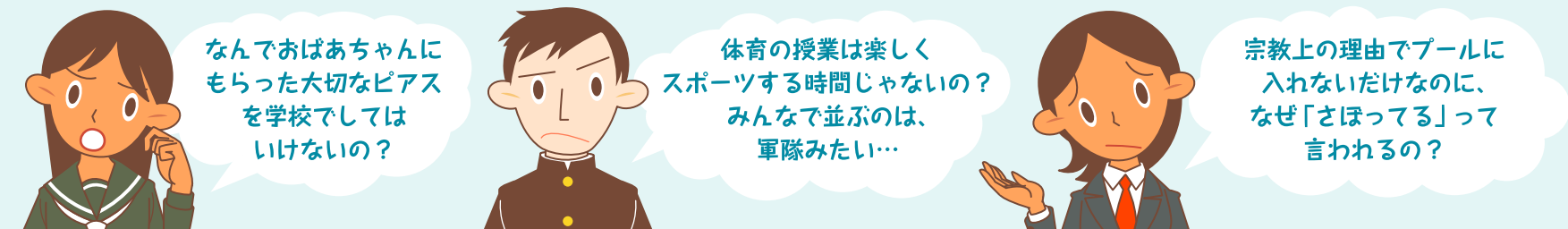
- 非正規雇用など、不安定な雇用形態
- 低い賃金

## 日本語は話せても、勉強ができない子どもたち…その理由

日常的に使う「生活言語」が習得できていても、教科書で使われる「学習言語」が習得できていないと日本語で会話ができても教科書に書いてあることが理解できない。その結果、勉強がわからなくなってしまふ。

## 「なぜ？」を解消できない日本での学校生活

出身国の学校と日本の学校は大きく違う。この違いが外国ルーツの子ども達を悩ませる。



## 外国ルーツの子どもたちの一部に見出せる、前向きな要素

### 外国ルーツの子どもたちの強み

- 親に聞いてもわからない問題を自分で解決しなければならないため、問題解決能力が高くなる
- すぐに解決できない問題に慣れているので、忍耐力がある

### 高校進学した際のプラスの変化

- 交友関係の広がりや学校行事への参加により、学校を楽しめるようになる
- 日本語能力の向上や成功体験の積み重ね、興味のある分野の発見により、学習意欲が向上する
- 学校生活を楽しめ、学習についても前向きになると、進学にも前向きになる

静岡文化芸術大学 池上先生のお話より  
[http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo\\_theme1-5.php](http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo_theme1-5.php)

## 困難を乗り越えた「第二世代の若者たち」の登場

- 一部の子どもたちは多くの困難を糧に成長し、大学進学等を実現している
- 外国ルーツの子どもたち向けにイベントの企画や運営を行うなど、「支援する側」に回る若者たちの登場
- 困難を乗り越えた若者たちが、困難に直面して将来が見えづらい子どもたちのロールモデルになっていく

